

明治三十九年

彼得大帝灣、航通、  
極東汽船企業會社露政  
府上締結、  
在青貿易事務官送付之年

外務省

元

3-2058

0342

明治三十九年八月二十七日

通商

通商

明治三十九年八月二十七日

公第一五〇號

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

波瀾大船汽船株式會社

91-9

64号

千九百十六年度航期中彼得大帝灣の  
 定期航通ニ関シ極東汽船企業會  
 社ハ航路業務局トノ間ニ締結シ  
 タル契約書(抄譯)  
 千九百十六年五月四日(露曆)航路業務局ト極  
 東汽船企業會社トノ間ニ千九百十六年度航  
 期中彼得大帝灣の定期航通ニ関シ締結  
 シタル契約事項次ノ如シ  
 一 會社ハ彼得大帝灣内ニ於テ一週ニ四下  
 記各線路ハ汽船航通ニ從事スルキモノトス  
 (甲線) 浦潮、マンゲカイ、スラヤンカノ間  
 (乙線) 浦潮、波西間  
 (丙線) 浦潮、カンガウザ、レホトウカノ間  
 (丁線) 浦潮、マスコッド、島、カイダマ、レホ、ナホカ  
浦、ウランゲリ、ノ間  
 以上各線路ノ航通ニ會社カ官船、下渡  
 シテ受ケタル日ヨリ十日以内ニ開始スルキモノ  
 トス  
 但シ龍江汽道總督ニ於テ必要ノ認  
 ムル場合ハ本條指定線路ノ各等航  
 路以外ノ地點ニ莫代價ニ以テ寄航スル  
 キモノトス  
 二 汽船會社ニ於テ作時ノ總督ノ認可  
 シテ經タル發着表ニ據リ定期航通  
 ニ從事スルキモノトス

在浦潮港日本貿易事務館

七

以  
其  
為  
主  
要  
事  
業  
之  
一  
也

三	會社ハ各船其貯炭量シ噸キ七百五十噸ノ積載力ヲ有スル汽船ヲ使用シ一時間平均九哩ノ速力ヲ以テ航
四	汽船ハ等級客十五名甲板客四十名以上ヲ搭載スルコト足ルノキ設備スル汽船ノ裝置家畜及貨物輸送上必要ナル諸般ノ設備等シ有ル會社ハ船中十分ノ注書ヨリ以テ其保身ニ任スルモノトス
	(消火機及救命器具等設備ニ関スル事項省略)
	但シ旅客船ハ通常使用スル燃料品備蓄等應急的設備ハ必要ナル物品ノ備付置スモノトス
六	公第七十號海運ノルル汽船會社及政府開闢の第五各及第六各同一ニ付省略
七	政府ハ本契約ノ規定スル業務航路ノ航運ニ對シニ金額ヲ會社ニ付ス
(一)	甲線 百五十萬
(二)	乙線 四十萬
(三)	丙線 五十一萬
(四)	丁線 百二十三萬七千五百
	運補助金ハ會社ハ提出スル航海

三

37

日計ノ運賃明細事項ニ據リ別ニ總督ノ命  
 令ニ依リ各航次運賃會社爲シリ又  
 出スルモノトス  
 一 旅客ノ運賃ハ會社ニ於テモ之ニ對シ  
 總督ノ認可ヲ經タル運賃ニ據リ徵  
 收セラレモノトス此等運賃ノ等列客一  
 運ノ間甲種客一運ニ對シ送附セサ  
 ルモノトス  
 (但書第一幼弱者運賃ニ關スル事項ハ省  
 略)  
 第二 旅客ノ手荷物ノ大人一各ニ付重  
 量ニ布度シ限トモ之ニ超過スル  
 重量ニ對シ船荷物ノ運賃  
在浦潮港日本貿易事務館  
 ニ據リ運賃徵收スルモノトス  
 第三 軍人移民流刑送書ニ付テ運賃  
 ノ命令ニ據リモノノ運賃ハ一船定率  
 ノ三分ノ一トス(中略)公用旅客ノ運  
 賃ニ關スル規則ハ主務者及會社  
 ノ協議ニ依リ別ニ之ニ定ム  
 九 公用旅客運賃ノ輸送ハ會社  
 ニ委テラレモノトス此等場合官廳  
 兼 旅客ノ負數トシテ貨物ノ種類及數量  
 馬正母他家畜ノ頭數シ厚シモ  
 汽船出發一週前會社ニ通知  
 スルモノトス若シ官廳ヨリ輸送  
 申シ下貨物ヲ汽船ニ搭載セザル

9

増合ニ會社カ有貨物ノ為特ニ保番  
ニ置ケル船體内ノ空地ニ私有貨物  
ヲ搭載シラ餘地アル時ハ官廳ハ  
之ニ對シ是率ニ準スル運賃ヲ支拂  
フモノトス

十 政府ハ本條の中ノ指定航路ニ由リ公  
用貨客ノ輸送ニ會社ニ委任スル  
レト雖モ尙ホ官船ヲ以テ有貨客ヲ  
輸送スルノ權利ヲ保留ス若シ第九  
條ノ義務的輸送ニ屬スル公用  
貨客ノ數目及會社ノ汽船由ニ搭  
載ノ餘地ヲ有セサル為會社ニ於テ  
右輸送ニ取扱ハ能ハサル場合ニハ

在港瀬日本貿易事務館

政府ハ右ノ私船ヲ使用セシメ輸送ニ  
從事シ得ルノ權利ヲ保留ス  
公用貨物ノ運賃ハ本條約書附屬  
定率ノ範圍ヲ超過マサルレト雖  
モ一個ノ重量百キログラム至リ百キ  
ログラムノ貨物或ハ一個ノ容積百立方  
メートル乃至三百立方メートルノ貨物  
ノ運送定率ハ二倍額ノ徵收セラル  
ルモノトス(以下省略)  
官有船ノ運賃ニ屬スル運賃及官  
有馬車運賃等ニ付スル運賃等ハ一額  
ニ付一運上ノ半一運上ノ他ノ  
運賃等一運上ノ半ニ付スルモノトス

十二 會社、其汽船、各寄航地ニ於テ什理  
 店及倉庫シ有スルキモノトス(中略)  
 本契約、期限内會社、其汽船、各港  
 泊地ニ於ケル不用會社地ヲ使用スル  
 コトヲ得、海峽ニ於テ其地港務局  
 ハ通商手廻ニ會社汽船ノ繋番所  
 シ指定ス  
 十三 會社、其取扱貨物ノ保全ニ對シ、主見  
 任ラカス、然レモ會社、損失ニ因ラザル  
 積荷ニ對シ、保リニ在ラズ  
 十四 (公) 第十七條 辨譯屋「ル」ニ「汽船會社契  
 約書第十四條第十五條ト同一ニ付  
 者略)

在浦潮海日本貿易事務館

十五 地方官高、汽船、定期出發ニ際シ、  
 ナカラシメ、カ有郵便物、公用仕具等ヲ通  
 時ニ發運スル事ニ注意シ、又汽船ノ運  
 送、ハ、方官等シ、收容スルキモノトス  
 十六 官廳、命令ニ據ルカ、或ハ官有貨物  
 、運送ニ際シ、主見任ラザル。定期  
 出發シ、爲ニ能ハサズ、或ハ官廳  
 事務等、時間ニ對シ、毎一時間ニ付  
 運送シ、會社ニ支拂フモノトス  
 十七 會社、汽船、定期出發、  
 爲ニ能ハサズ、或ハ官廳事務等、  
 時間ニ對シ、毎一時間ニ付、  
 運送シ、會社ニ支拂フモノトス

38

船カ規定ノ港灣ニ寄ルカナルキ  
 人會社ニ其ノ港灣ニ對シテ  
 料ヲ課スルコトノキモノトス  
 其ノ會社ノ所定ニ因リテ  
 自ラノ料ニ或テ課スルカ  
 ルトキハ其ノ料ヲ課スル  
 再度ニ及ブトキハ其ノ料  
 ニ課スルコトノキモノトス  
 以テノ料料ニ其ノ罰則カ  
 不可抗カ  
 原因スル場合ニ於テ  
 ハモトス

十九 不可抗カノ障礙ニ因リテ  
在浦潮港日本貿易事務館  
 シテ會社カ船ヲ毀スルコト  
 政府ニ對シテ、企業者ニ本  
 事業シテ、同時ニ本契約  
 破毀スルコトノ障礙ニ  
 本契約書ノ事項ニ對シテ  
 社ニ對シテ、問題ニ對シテ  
 場合ニ於テ、本契約書ニ  
 シテ、不可抗カノ障礙ニ  
 對シテ、(首略)

二十 本契約書ノ事項ニ對シテ  
 社ニ對シテ、問題ニ對シテ  
 場合ニ於テ、本契約書ニ  
 シテ、不可抗カノ障礙ニ  
 對シテ、(首略)

二十一 本契約書ノ事項ニ對シテ  
 社ニ對シテ、問題ニ對シテ  
 場合ニ於テ、本契約書ニ  
 シテ、不可抗カノ障礙ニ  
 對シテ、(首略)

二十二 本契約書ノ事項ニ對シテ  
 社ニ對シテ、問題ニ對シテ  
 場合ニ於テ、本契約書ニ  
 シテ、不可抗カノ障礙ニ  
 對シテ、(首略)





明治三十九年

九月二十九日

日發遣

通商局長

林

野村

送第二〇五號

野村高等局長

内田官船局長宛

彼等本常備船運上乗之船東流航運業

會社上船政村召之船政上之契約書之件

外務省

彼等本常備船運上乗之船東流

航運業會社上船政村召之船政上之

契約書之件上船政上之船政上之

航運業會社上船政村召之船政上之

航運業會社上船政村召之船政上之

航運業會社上船政村召之船政上之

（内田官船局長宛）



第 九 卷  
第 二 号

明治三十九年九月二十二日接

明治三十九年九月二十二日  
管轄第五四三九號

受第一二八九四號

他得大南洋航運之開と極東企業  
汽船會社と露國政府と締結の契約

書、中

右開覽海音は近海の調査及び交渉

逓信省管船局

外務省通商局

明治三十九年十一月六日正録編纂

逓信省經理印刷工務所

3-2058

0352